

豊田 P C B 廃棄物処理事業
視 察 報 告 書

北海道 P C B 廃棄物処理事業監視円卓会議

平成 2 0 年 1 2 月 1 8 日

行程

平成20年10月26日(日) 移動日

平成20年10月27日(月)

10:00～12:30 豊田市PCB処理安全監視委員会傍聴

13:00～15:00 日本環境安全事業株式会社豊田事業所視察
/ 豊田市との意見交換

(愛知県豊田市細谷町3-1-1 日本環境安全事業株式会社豊田事業所)

参加者

北海道PCB廃棄物処理事業監視円卓会議

委員		佐々木 順 一
委員		西 原 羊 一
委員		橋 本 忠 雄
随行者	北海道環境生活部環境局循環型社会推進課主任	原 口 ゆみ子
	室蘭市経済部産業振興課主査	北 野 栄 男
	〃 生活環境部リサイクル清掃課主任	佐 藤 亘

対応者

豊田市環境部環境保全課

宇井部長、松井係長 ほか

日本環境安全事業株式会社豊田事業所

吉本所長、伊藤総務課長、田村審議役 ほか

日本環境安全事業株式会社北海道事業所

田畑総務課長

豊田市PCB処理安全監視委員会傍聴

1. 日本環境安全事業株が行うPCB廃棄物処理事業を監視する組織

事業名	豊田事業	北海道事業
組織の名称	豊田市PCB処理安全監視委員会	北海道PCB廃棄物処理事業監視円卓会議
設置年月日	平成15年10月1日	平成17年7月5日
構成	<ul style="list-style-type: none"> ・委員15名 <ul style="list-style-type: none"> 学識経験者 4名 周辺自治区代表 6名 周辺企業代表 2名 公募市民 3名 ・オブザーバー 2名 (市消防、愛知県) 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員15名 <ul style="list-style-type: none"> 学識経験者 3名 団体からの推薦者 7名 公募委員 5名 ・オブザーバー (環境省、日本環境安全事業株等) ・近隣市町村 2名
監視事項	<ul style="list-style-type: none"> ・処理施設の設計・施工等に関する事項 ・処理施設の運転、安全対策等に関する事項 ・収集運搬及び運行管理に関する事項 ・処理事業全般における安全性及び環境保全に関する事項 ・環境モニタリングに関する事項 ・情報公開に関する事項 	<ul style="list-style-type: none"> ・処理施設の整備に関する事項 ・処理施設の操業に関する事項 ・収集運搬及び運行管理に関する事項 ・環境モニタリングに関する事項 ・情報公開に関する事項
開催状況	年3回程度	年4回程度
事務局	豊田市環境部環境保全課	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道環境生活部環境局循環型社会推進課 ・室蘭市経済部産業振興課
情報公開	<ul style="list-style-type: none"> ・会議公開(傍聴席の設置) ・資料の配付(傍聴者配付やHP掲載など) ・議事録・議事要旨で発言委員の氏名掲載なし ・「豊田市PCB処理安全監視委員会だより」の発行 	<ul style="list-style-type: none"> ・議事内容の公開(委員会の議事要旨をHPで公表) ・議事録・議事要旨で発言委員の氏名掲載なし ・「北海道PCB廃棄物処理事業監視円卓会議だより」の発行
ホームページ	http://www.city.toyota.aichi.jp/division_n/ae00/ae03/tanto/pbcsyorianzenkansiiinkai/	http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/jss/recycle_2/pcb/entaku/entaku.htm

2. 豊田市PCB廃棄物処理安全監視委員会の傍聴

平成20年10月27日に開催された「豊田市PCB廃棄物処理安全監視委員会」を傍聴しました。

なお、委員会の概要は「豊田市PCB処理安全監視委員会 平成20年度第2回開催報告」(p4～P8参照)のとおりです。
(豊田市HPからの転載)



豊田市 PCB 処理安全監視委員会平成 20 年度第 2 回開催報告

日時:平成 20 年 10 月 27 日(月曜日)午前 10 時から午後 12 時 30 分

場所:日本環境安全事業(株)豊田事業所

議題

- 豊田 PCB 廃棄物処理事業における豊田市の対応について
- 豊田 PCB 廃棄物処理施設の操業状況等について
豊田市域の処理終了時の事業総括(中間)
- 豊田 PCB 廃棄物処理施設の状況報告について

委員会の様子

委員会

平成 20 年 10 月 27 日(月曜日)午前 10 時から日本環境安全事業(株)豊田事業所において、平成 20 年度第 2 回豊田市 PCB 処理安全監視委員会を開催しました。

委員会には安全監視委員 13 名、オブザーバーとして愛知県資源循環推進課と豊田市消防本部、また、環境省産業廃棄物課、処理事業者の日本環境安全事業(株)(JESCO)が出席しました。なお 11 名の方が委員会を傍聴されました。



議事内容(要旨)

(1)豊田 PCB 処理事業における豊田市の対応について

市から、前回の安全監視委員会(平成 20 年 5 月 30 日)以降に実施した豊田 PCB 廃棄物処理施設や収集運搬作業における立入検査、環境調査結果等について報告がありました。

- 処理施設への立入検査の結果、遮蔽フード内のステンレス床コーキングについて、定期検査で微少発泡を確認する個所が増加傾向にあることが明らかになったため、JESCO に対し、原因究明及びコーキングの管理方法について再検討を指導しています。
- 新たに収集運搬作業を始める鈴與自動車運送(株)及び(株)エコ・ポリスに対して、搬入訓練及び初荷の運搬作業を立入確認しました。初荷の運搬時には、搬入訓練での指摘事項が改善され、適切な作業を行っていることを確認しました。
- 平成 20 年 8 月に実施した処理施設周辺の大気及び土壌環境調査結果について、過去の調査結果と比較して大きな変動はなく、環境省が全国で実施しているモニタリング結果の範囲にあり、異常は認められませんでした。
- 豊田市ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理計画では、市内の PCB 廃棄物であって、豊田処理施設の処理対象物については平成 20 年度末までに処分することを目標としており、市は立入り等による指導を行っていますが、未だ処理を行っていない事業者に対しては、平成 21 年 3 月末までに処理が推進されるよう引き続き指導を行います。

(2)豊田 PCB 廃棄物処理施設の操業状況について

日本環境安全事業(株)から、豊田市域の処理終了時の事業総括(中間報告)がありました。

- 豊田処理施設においては、豊田市内に存する高圧トランス、高圧コンデンサ及びこれらと同等のものは、平成 20 年度末までに全て処理することとしています。処理施設では平成 20 年 9 月末までに、コンデンサ類を 7,050 台処理しており、市内のコンデンサ類で JESCO に登録されて処理すべきものは、9 月末時点で 6,286 台であることから、処理施設は市内分の PCB 廃棄物を処理するのに十分な処理能力を備えています。しかしながら、豊田市内には、現施設で処理が困難な PCB 廃棄物や、経済的な理由等により早期処理を希望していない保管事業者が保管する PCB 廃棄物があるため、予定の平成 20 年度末までに市内の全ての処理対象物を処理することができない状況です。
- 平成 20 年 9 月末までの豊田施設の処理実績は、トランス類 463 台、コンデンサ類 7,050 台、廃 PCB 油が 64 本あり、PCB の分解量としては約 300 トンです。

(3)豊田 PCB 廃棄物処理事業の状況報告について

- PCB 廃棄物保管事業者がコンデンサ 1 台を自家用車にて処理施設へ持込み、その廃棄物を JESCO がやむを得ず、一時的に預かる事案が発生しました。このことについては、保管事業者に対して受入基準を強調して説明する、行政機関と保管困窮者の情報を共有するなどして再発防止を図ります。
- 遮蔽フード内の SUS 床のコーキング施工を実施した個所について、定期的な発泡漏れ試験を実施していますが、微少発泡が目立つようになって来たため、平成 20 年 8 月に詳細点検を実施しました。これまでの管理データや新たな調査結果をふまえ、SUS 床の管理基準を定めることにします。

(4)主な質問と回答

質問：コンデンサの自己搬入について、収集運搬業者に断られたら、他の業者を紹介すれば良かったのに、なぜできなかったのか。

回答：収集運搬業者に保管者の困窮状況が十分伝わっていなかったため、今後は JESCO、収集運搬業者、排出事業者と連絡体制をとり情報共有を図っていく。

質問：コンデンサの自己搬入は絶対にあってはいけないことなのに起きてしまった。住民へは決められたルートと容器で運搬すると説明しているのに、再発防止を徹底し、次回委員会までに対応方法を報告して欲しい。

回答：運搬業者が緊急性を十分認識していなかったのが原因であるので、処理の途中で保管困窮者の情報をしっかり把握することが必要である。先日開催した 4 県 7 市のワーキンググループにおいて、そのようなシステムを構築することで調整することを決めている。

質問：豊田 PCB 廃棄物処理施設で、受入ができないにじみのある廃棄物について、保管事業者が安全に保管するようにどのような指導を行っているのか。

回答：保管事業者に対して立入検査を行っている。漏洩物もあるので、適切に管理してもらうように指導しているが、基本的には早く処理してもらうのが良いので、国や JESCO に対して早期に処理してもらえるような方策の検討をお願いしている。

質問：JESCO は浄化槽の出口で排水検査をしており、市は最終放流口で検査をしている。最終放流口の検査が必要と思うが。

回答：最終放流口についても、JESCO が自社で 2 週間に 1 度測定を実施している。

質問：衛生関係から作業者の健康状態はチェックしているという話したが、運搬業者あるいは保管業者など、PCB 処理全体の関係者の作業衛生状態、あるいは健康安全状態を把握するシステムは何かあるのか。

回答：豊田市で検討してすぐに回答できる話ではないと思うので、愛知県、広域協議会あるいは国と一度相談させていただく。

意見・要望

- 漏洩品等の処理困難物があることは当初から分かっていることなので、市内廃棄物の処理目標の期限である平成 21 年 3 月に間に合うよう、処理困難物の処理方法について検討のスピードを上げて欲しい。
- コンデンサの自己搬入の対策について、明日、明後日起こるかもしれないという緊迫感を持って対応して欲しい。

**日本環境安全事業（株）豊田事業所視察
／ 豊田市との意見交換**

1. 処理施設の概要

		豊田事業 事業対象区域：4県 (岐阜・静岡・愛知・三重)	北海道事業 事業対象区域：1道15県
			
進捗状況	事業実施計画の認可	平成14年10月	平成15年2月
	産廃処理施設設置許可	平成16年3月	平成18年2月
	試運転開始	平成17年5月	平成19年3月
	処理の開始	平成17年9月	平成20年5月
処理能力	分解	1.6 t/日	1.8 t/日
	洗浄	10.8 t/日	10.8 t/日
	分離	2.7 t/日	3.4 t/日
処理技術等	請負企業(共同企業体)	クボタ神鋼環境(豊田)異工種建設工事共同企業体	新日鐵エンジニアリング株式会社
	総合エンジニアリング	(株)クボタ	新日本製鐵(株)
	ライン構成	大型トランス/小型トランス/車積型トランス/コンデンサ	大型・車載トランス/小型トランス/コンデンサ/その他
	前処理技術	(株)神鋼環境ソリューション=溶媒抽出分解法(真空加熱分離法含む)	(株)神鋼環境ソリューション=溶媒抽出分解法(真空加熱分離法含む)
	洗浄溶剤	炭化水素系溶剤	炭化水素系溶剤
	真空加熱分離(処理対象物)	含浸性部材、車載型トランスの容器、外部部品の一部	含浸性部材、車載型トランスの容器、外部部品の一部
	液処理技術	原子燃料工業(株) =金属ナトリウム分散油脱塩素化法(OSD法)	(株)神鋼環境ソリューション =金属ナトリウム分散体法(SPハイブリッド法)
	概要	窒素雰囲気下でPCBと金属Na分散油を混合攪拌し、PCBの脱塩素化を行う。 ・ 温度：155 ~ 160 ・ 圧力：常圧 反応終了後、後処理としてクエンチ水を注入し余剰Naを処理。後処理後、遠心分離により溶媒と残渣に分離。	窒素雰囲気下でPCBと金属Na分散油を混合攪拌し、PCBの脱塩素化を行う。このほか真空加熱分離から排出されるPCBを処理対象とした副反応系(温度条件等が異なる)を設置。 ・ 温度：115 ~ 120 ・ 圧力：常圧 反応終了後、後処理としてクエンチ水を注入し余剰Naを処理し、静置、水洗、蒸留を経て処理済油を回収。
	運転管理会社	豊田環境サービス(株)	室蘭環境プラントサービス(株)
	建築概要	用途地域	工業専用地域
敷地面積(m ²)		9,774	40,000
延床面積(m ²)		20,711	25,423
高さ(m)		30.95	30.45
建物概要		鉄骨造地上7階建	鉄骨造地上4階建

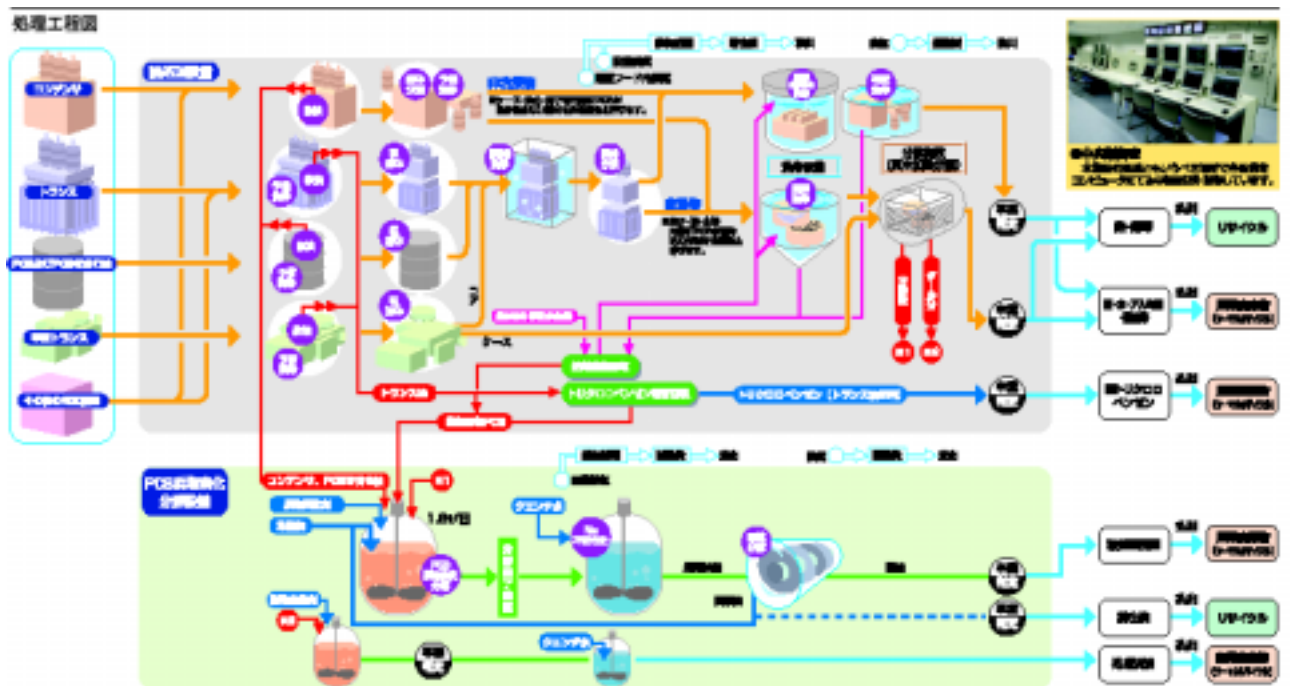
2. 視察概要

(1) 豊田事業所処理施設入口



(2) 処理工程図

プレゼンテーションルーム(3F)にて、DVDによりご説明いただきました。



(3) 施設視察の状況

処理ルートからの見学の様子



- ・見学通路（3F、5F、7F）から、窓越しに処理工程を見学しました。
- ・窓の横には、解説用のパネル・映像モニターが設置されていました。

情報公開ルーム



展示物



- ・情報公開ルーム（3F）には、トランス等の実物、メディアウォール（CGにより処理を再現して紹介）各種パネル、関係資料等が備え付けられていました。
- ・H20.9末現在の見学者数は2,927名で、内訳としては、県内の保管事業者等多いとのことでした。

3. 意見交換事項

(1) 豊田市

項目	内 容	豊田市の回答	北海道の状況
1 安全監視委員会について	<p>(1) 安全監視委員会の構成について、人数や選出にあたっての考え方を教えてください。</p> <p>(2) 豊田市と安全監視委員会委員のコミュニケーションについて、会議開催以外に何かありましたら教えてください。</p> <p>(3) 安全監視委員会の権限等について教えてください。</p>	<p>・15名で構成（公募市民3、学識経験者4、周辺自治区代表6、周辺企業代表2） オブザーバー2名（市消防、県廃棄物担当課） ・現在女性は1名であるが、女性登用率30%を目指している。</p> <p>会議が中心。委員による視察の実施無し。 なお、監視委員会の任期を終了後、再任がない委員には、中部電力（名古屋市内）の施設等の見学会を実施。</p> <p>豊田事業に関する各事項について監視するものであり、処理施設への立入及び書類の閲覧をすることができる。 また、監視した事項に関し、豊田市に対し意見を提出することができる 事例無し</p>	<p>・北海道の内規「附属機関等の設置及び運営に関する基準」に基づき任命 ・15人以内・幅広い分野から選出 ・委員の構成は、円卓会議の前身である「室蘭市PCB処理安全市民委員会」を参考 ・女性登用目標率は、H29末40%</p> <p>H17から毎年、国内他事業を視察（参加希望委員）</p> <p>北海道事業に関する各事項について監視するものであり、処理施設への立入及び書類の閲覧をすることができる。 また、委員は監視した事項に関し北海道に対し、意見を述べることができる（原則書面により提出） 事例無し</p>
2 PCB特措法に基づく届出状況等について	<p>(1) 特措法に基づく届出状況の経年データをお示し下さい。</p> <p>(2) 未届PCB廃棄物の把握について、何か取り組みをしていればお知らせ下さい。</p>	<p>PCB廃棄物保管事業場数は、H17末で述べ308事業場（豊田市内）。</p> <p>経済産業省のデータとの突合や、電気設備のある事業所に通知等を行っている。 引き続き現場確認等により対応していきたい（普及啓発に努める）。</p>	<p>H17末現在、延べ1,857事業場（北海道内分・政令市除く）。</p> <p>各種説明会や立入検査、現場確認など、機会を捉えて普及啓発</p>
3 その他	緊急時等における地域住民への連絡等について	緊急案件は、関係する町内会に通知することとしている。	緊急時連絡体制を構築済。事案のレベルにより連絡範囲や時期を定めている。

(2) 日本環境安全事業(株)豊田事業所

項目	内容	豊田事業所の回答
1 処理全般	<p>(1) PCBの処理について 直近年度で、主なラインや機器類に不具合等(特に、分解工程や密閉区域内でのトラブル等)がありましたら、その内容と取った対策を教えてください。</p> <p>分解工程(反応)は、当初計画(設計)どおりに進行していますか。また、問題があった場合は、どのような対応をされたか教えてください。</p> <p>(2) 活性炭フィルターについて (場所にもよると思いますが)どれくらいの頻度で交換していますか。</p> <p>使用後のフィルターのPCB検査は行っていますか。また、予想した量のPCBは吸着されていましたか。</p> <p>データの公表はしていますか。</p> <p>使用済活性炭の保管量を教えてください。</p> <p>(3) 稼働率について 経年の稼働率はどうなっていますか。</p> <p>当初計画との乖離はありますか。また、その場合はどのように調整しているかお知らせ下さい。</p> <p>豊田市内分をH20中に処理するとの計画達成は困難とのことですが、稼働率は上げますか。</p> <p>(4) 処理したトランス等の製造番号は控えていますか。(製造メーカー等の台帳等との突合により、未処理や未届け機器の追跡に役立つとの考えによる)</p>	<p>H17年11月にPCB漏洩事故を起こした後、原因究明及び再発防止対策を講じ、その後設備不具合による運転停止があったもののH19年6月末運転再開後は、順調に操業を行っている。</p> <p>現在、計画どおりに進行している。</p> <p>排ガス濃度等により、頻度が異なり、一斉に交換することはない。システムにより異なるが、目安としては1、2、4年の周期で交換している。</p> <p>使用後のフィルターについては検査を実施していない(使用前、使用後の重量は計測している。)</p> <p>公表していない。</p> <p>汚染物等と一緒にドラム缶に保管しており、現在、ドラム缶314本</p> <p>当初からフル操業を目指したため、トラブルが多かったとの認識。現在は順調。年間3回定期検査、正月休み等を含め、80日操業を停止、年間285日程度操業している。</p> <p>現在のところ、概ね計画どおりと考えている。</p> <p>東海4県全体としては計画通りに進捗する見込みなので、稼働率を上げる予定はない。</p> <p>控えている。</p>

項目	内容	回答
1 処理全般	(5) 廃棄物等の処理について 種類ごとの処理方法をお知らせ下さい。特に、廃アルカリの処理については、どのようにされていますか。	液処理残渣 焼却処理(北九州、大阪2箇所) 廃TCB 焼却処理 有価物 入札により払出(月300万円程度)等
2 教育訓練、安全対策	(1) 貴事業における、ヒューマンエラーの抽出、分析及びリスクアセスメントの実施状況等について教えてください。 (2) 作業従事者に対する教育訓練の状況について教えてください。	ヒヤリハット活動に取り組んでいるほか、外部講師を招いての研修によりいっそう拡大・活性化を図っている。 また新規入場者への教育、他事業所からの異動者へ、過去の事故等に関するセミナーを実施している。 昨年度は、設計会社を講師とし、設計思想等に関するセミナーを月1回開催した。 今年度は、交通マナー等についても行っている。
3 住民対応等	事業に関し、住民から苦情や問い合わせ等がありましたら、内容を教えてください。	豊田事業所は工業専用地域であるが、約200m先に民家がある。トラブルがあった時に、新聞の情報だけではなく、早急に連絡がほしいとの話があったため、町会を通して連絡する体制を作った。
4 その他	(1) 緊急地震速報装置を導入した理由を教えてください。 (2) 搬入時間は交通量が多い時間帯と考えられるが、配慮していることはありますか。	(1) 東海地区は地震多発地域であることから、委員からの要望があり導入した。速報により職員の心構えができることに有効性がある。 (2) 特になし

報 告 書

氏 名 佐々木 順一

1 (1) 豊田市PCB廃棄物処理安全監視委員会傍聴

(2) 豊田市環境部との意見交換

感想等

(1) 豊田市の安全監視員会を傍聴させていただき、一番感じたのは5月30日から10月24日までの5ヵ月間に15回もの立ち入りを行い、会議の冒頭に同市の環境部環境保全課長さんが報告を行い、会議の行政の主導で行われていたことです。

委員には大学の先生も多く、また地域の代表が委員になっていて、副委員長に地域の代表者がなっているなど、地域重視の姿勢が感じられました。

会議ではPCB廃棄物保管業者が、個人でコンデンサを持ち込んだという問題が注目されていました。特に持ち込んだ理由が、廃業して工場跡地も自宅も人手に渡っており、引き取ってもらえなければ不法投棄も辞さないというほど深刻なものでした。

(2) 監視委員の権限についてお聞きしたのですが、特に特別な権限が認められているわけではなく、室蘭と特別変わったところがないように思われました。

今後の参考になると考えられる事項

監視円卓会議について(内容、方法、リスクコミュニケーションのあり方等)

安全監視員会の構成に地域の代表が入っていたことは、室蘭の円卓会議の構成を考える上で参考になることだと思いました。

また大学の先生が4人も入っていたことは、室蘭でも本格操業にあたり、専門家の意見も求められることもあると思われ、重要なことだと思いました。

豊田市が立ち入り検査を行っていたことについては、室蘭市にはそのような権限が与えられていないことを初めて知りました。処理施設のある市で権限の無い市が室蘭だけであることから、道は室蘭市に対して立ち入り検査の出来る権限を特別に与えることが出来ないものかと思いました。

その他

豊田市の安全監視委員会でも大半の時間討議されたPCB廃棄物の個人持込みについて、理由は工場跡地も人手に渡りというもので、このような事は想定外のことであろうが、室蘭でも他県と連絡を密にして保管の管理を把握しておく必要があると思います。

豊田市ではPCB廃棄物処理に係わる東海地区広域協議会が持たれていますが、北海道も必要ではないかと思われま

2 日本環境安全事業(株)豊田事業視察

感想等

産業廃棄物の処理で、受入先を2カ所持しているとの話がありましたが、室蘭でも複数の受け入れ先が必要なのではと思いました。

操業状況に係る報告書（安全監視委員会の配布資料）では「産業廃棄物は熱源やセメント補助原料、再生砕石などとして再資源化を行うことで、最終埋立処分量ゼロを達成しています。」とありますが、室蘭ではどのような状況になっているのか情報が欲しいと思いました。

今後の参考になると考えられる事項

今後、北海道事業に取り入れて欲しい事項（情報公開の方法、作業従事者等に対する教育訓練等）

稼働率達成の話のなかで、操業当初稼働率を上げることで無理したことが、事故につながったと感想が話されていましたが、室蘭も急いで稼働率を上げるのではなく、安全な処理を第一に操業して欲しいと思いました。

豊田事業所では新規入場者教育を行い、受講者にPCB安全講習修了証を発行しているとありましたが、室蘭でもそのようなことが行われているのか、もし無いとしたら検討する必要があると思われました。

その他

安全監視員会が予定時間を大幅にオーバーしてしまい、施設見学の時間が十分に取れないなかでしたが、施設を見学させていただきました。

私たち視察者のために、忙しい中多くの時間をとっていただいたことに感謝し、この経験を室蘭の円卓会議でも生かした発言をしていきたいと思えます。

視察全体に対する意見、感想等

今回の視察で、豊田事業所の安全監視委員会を傍聴できたことは、大いに参考になりました。欲を言えば安全監視委員の人たちと意見交換が出来ればよかったと思っています。

報告書

氏名 西原 羊一

- 1 (1) 豊田市PCB廃棄物処理安全監視委員会傍聴
- (2) 豊田市環境部との意見交換

感想等

委員の出席率がよいという印象。少なくともこの日は100%の出席率だったようです。

委員会構成に差異を感じた。
産(2) 学(4) 官(オブザーバ2) 民(自治地区6、公募2)の構成中、自治地区代表6名は参考になる。

会議日程(時間)はいずれも同じなのか、膨大な資料、経過説明などに時間をとられ実質的な討議にはなっていない印象。

上記に関連して、PCB廃棄物の個人持込が重要な議題なのに討議の尻すぼみの感が拭えなかった。

今後の参考になると考えられる事項

監視円卓会議について(内容、方法、リスクコミュニケーションのあり方等)
問題の性質にもよるだろうが、今回の討議時間は11:30終了予定が12:00過ぎまで延長されたが、討議は未消化だったと思うので、必要な場合は昼食後も討議したらよい。

その他

リスクコミュニケーション問題として、愛知県でのPCB保管困窮者は30名程度と報告されていたが、公募委員の一人から、北海道のような広域処理への不安と愛知県の輸送と保管について意見が出された。

北海道での処理は、東北・北海道全域にわたり広域である以上、その保管状況等の再点検、実態調査、さらに保管困窮者状況調査を早急にすべきである。

2 日本環境安全事業(株)豊田事業視察

感想等

短時間の施設見学だった。

今後の参考になると考えられる事項

今後、北海道事業に取り入れて欲しい事項（情報公開の方法、作業従事者等に対する教育訓練等）

排出物のN a c lは（処理先である）北九州で海中投棄しているとの説明があり驚いている。北海道ではそのような説明がされていないが、排出物全般の詳細な処理状況を公開すべきだ。

少なくともN a c lの海中投棄は参考にならないと思った。

その他

視察全体に対する意見、感想等

視察日程が短すぎます。2日間あればよいと思いました。

区分	午前中	午後
1日目	委員会傍聴	委員との交流
2日目	施設見学	市との意見交換

この程度の日程が必要です。

報告書

氏名 橋本 忠雄

- 1 (1) 豊田市PCB廃棄物処理安全監視委員会傍聴
- (2) 豊田市環境部との意見交換

感想等

監視委員会の構成について、監視委員会に周辺自治区の代表が6地区から参加していることは室蘭と違って、こうした構成をしておく、代表は地域の人々の意見を監視委員会に反映させるので良いと判断した。

実際代表は、監視委員会で地域の意見を反映させた発言をしていた。

たまたま規則違反のPCB持ち込みをした事例の検討に遭遇し、参考になった。しかもこのことをめぐって行政と自治区代表との意見が別れたのも興味を引いた。

行政側の対応は、これは規則違反で今後こうした持ち込み許さないと言う立場だけであったが、自治区代表は違法PCB持ち込みをした人に対する同情を示すと共に、行政の立場を貫くだけでは今後もこれに類する事例があるだろうからそれに対する対策をとるように主張していた。

規則違反は許さないと言う行政の立場は理解するが、一般に行政の弱点は、規則を守ってことを行っていれば問題が起きても行政側に責任は無いと考えるところにある。

現実はそのことを越えているいろいろの事態が進行していることを知らなければならぬだろう。PCB処理は住民の理解と協力がなくては進まない事業であることを改めて痛感した。

PCB処理は国の事業であり、規則に従った執行が要求されているが、地方自治体は憲法に保障された自治体の権利があり、住民の利益を守っていかなければならない。国に対して要求すべきところは要求して、PCBの安全処理の研究をさらに進める必要がある。

今後の参考になると考えられる事項

監視円卓会議について(内容、方法、リスクコミュニケーションのあり方等)

- 1) 円卓会議に提出する資料を今よりさらに早く委員に配付できるよう務められたし。
- 2) 円卓会議で、次回問題として取り上げよと言う内容の発言を私は過去何回かしているが、室蘭では取り上げられなかったためしがない。円卓会議がいわゆる聞きっぱなしにされているという不満は、私だけではない。豊田の自治区代表も不満を述べていた。アジェンダ設定権は何処にあるのかと思った

その他

大変難しいだろうが、豊田の監視委員会の人々との話し合いがほしかった。

これは行政側としては嫌なことだろうが、これは本当は非常に重要なことです。上にも述べたように現在の行政側(JESCOも含めて)は住民の意見をあまり聞きたくないと言うのが本音と思うが、PCBを安全に処理する事業は住民の理解と協力、住民が知恵を借りること無くしては出来ないものです。ここのところの発想の転換が求められている。

2 日本環境安全事業(株)豊田事業視察

感想等

工場の視察については別に言うことはない。
ただ室蘭の情報開示の施設は豊田より優れているので、さらなる活用を通じて市民に広めるべき。

今後の参考になると考えられる事項

今後、北海道事業に取り入れて欲しい事項（情報公開の方法、作業従事者等に対する教育訓練 等）

J E S C Oの5事業所全体をまとめて、P C B処理（量）がどのように進行しているのか、それを明らかにすることは、室蘭が最後の施設であり、情報開示の場所も広いので、室蘭でやるべきだろう。このことは監視円卓会議でも以前私は述べていることだが。

その他

視察全体に対する意見、感想等

訪問した先で、その監視円卓会議の人たちとの話し合いを求める。